

防衛装備庁からの説明（概要）

○ スバルと米軍との定期機体整備の契約は、2020年に整備入りする機体までとなっており、米軍は2021年以降の整備について実施企業を募集するため、提案要求を公表した。今後、入札手続きが進められ、7月8日までに、関心を有する企業が提案を行い、本年秋頃に実施企業を選定される見込み。

○ 主な整備対象は普天間飛行場に配備されている米海兵隊オスプレイで変わりはない。その上で、米軍が公表した提案要求書において、2023年以降、米海軍オスプレイCMV-22の整備も想定している旨記載されている。同機体は、空母に補給物資や人員を輸送するための機体であり、エンジン等基本的な構造はMV-22と同じだが、搭載できる燃料の量が増加された結果、航続距離が延長されているものと承知している。なお、現時点でCMV-22の日本国内配備について何ら決まった方針があるとは承知していない。横田基地に配備されている米空軍オスプレイについては、本入札に基づく整備は想定されていない。

○ また、米軍は同時に整備を行う機体の数を最大で7機と提案要求書に記載している。整備に要する期間については約1年4ヵ月とされているところ、これまでの整備実績等を踏まえて延長されたものと承知している。

○ 防衛省としては、日米共通整備基盤は後方分野における日米協力の象徴であり、陸自オスプレイ整備の効率化、沖縄負担軽減策の継続の観点からも、2021年以降も木更津駐屯地において事業が継続して行われることが重要だと考えている。

○ このため、まず、木更津駐屯地の格納庫の使用を前提として、米軍の入札に参加する意思のある国内企業について、平成26年と同様に公募を速やかに実施したいと考えている。

○ その上で、米側の需要増及び陸上自衛隊オスプレイ整備需要に対応するため、木更津駐屯地北西に、新たに格納庫を2棟建設することを計画している。格納庫の建設後には、現在定期機体整備に使用している格納庫と併せ、計3棟で整備を実施したいと考えている。工期については、現在検討を行っているが、まずは土質等の調査や設計を早期に行いたいと考えている。

○ 平成27年に説明した際には、年によって対象機数は変動するものの一年間に想定される米海兵隊オスプレイの機体数は5機から10機程度の整備を想定している旨説明したが、今後最大同時7機整備が行われたとしても、整備に見込まれる期間が約1年4ヵ月に延長された結果、年間の試験飛行の回数は当初想定されていた試験飛行の年間回数より、必ずしも増加するものではないと考えているが、防衛省としては、引き続き試験飛行の実施にあたって、飛行の安全に万全を尽くすことを米軍及び企業に求めていく。

○ 共通整備基盤におけるオスプレイ整備については、地元の皆様のご理解が重要であると承知しており、引き続き丁寧なご説明に努めていく。